

# 平成30年度特定非営利活動に係る事業報告

特定非営利活動法人はあもにい

## 全体報告

30年度も設立理念はそのままで、発達及び知的障害の特性を抱えた当事者やその家族が、誤解や偏見を受けることなく、ありのまま認められ、受け入れられ、理解される環境（人・場所）を地域コミュニティの中に確立・構築していく（半径20キロ圏内からの真のノーマライゼーション社会の実現）ため、必要な支援（サービスの提供）及び普及・啓発活動を行った。

経営については、福祉事業の減収（放課後等デイサービス事業の報酬改定による給付費2割減。就労継続支援事業A型の報酬改定及び利用者増による給付費増を合わせても減収となり、福祉事業では厳しい経営状況が改善されるに至らなかった。

就労事業では前年度末から進捗中の取引案件（資生堂パーラー銀座本店様との業務用はちみつ卸販売、千葉県内名門ゴルフ場でのはちみつ卸及び委託販売等）が成立、長期プロジェクトとして企業から食材として野菜生産委託（ZETTON Aloha table様への業務用むらさき芋卸販売）ほか、OEM 製造依頼（大多喜ハーブガーデン様、鍋店株式会社様）など、企業のCSR活動ともリンクしつつ、今までの取り組みが評価され、就労各部門が信頼できる生産者として評価されるようになり、今後さらなる展開を期待できる企業取引が増加したものの、売り上げ自体は昨年度の大口取引がなくなったり、結果昨年度とほぼ同額となつたが、経費削減等の成果もあり収益は上がり、利用者賃金及び工賃増分も補てんすることなく貯うことができた。

30年度も理事会（月2回）を中心に部門ごとの改善計画を立て、各部門ごと経費削減及び収益増のための取り組みを行い、就労事業では成果を上げることができたが、全体としては福祉事業収入の減収がひびき、本年度も赤字決算となってしまった。

## I 障害福祉サービス事業

### ①放課後等デイサービス事業

引き続き中高生に特化したデイサービス提供事業所として、他事業所との差別化をはかり、大人になる前の大事な時期に獲得すべき力を身に着ける支援の場として、利用児童の個々の特性を理解し「よりよい生活をしていくためのソーシャルスキルアップ」「豊かに人生を過ごせるようにするための趣味の獲得」及び、「社会活動を通して地域コミュニティへの参加」を主な課題とし、サービス提供内容のさらなる充実に努めた。

土曜日デイサービスの活動は、「からだクラブ」は継続、「あとりえクラブ」が終了し、あらたに「おとクラブ」（いずれも月1回実施）を始めた。平日のデイサービスでは、時間をかけて取り組むことの難しい体つくりや、音楽を楽しむ・演奏するなどの活動を楽しめる場を作った。

夏休み等長期休暇中しか利用できない、逆に長期休暇中は利用しない定期利用児童のために、サマープログラム等長期休暇に特化したサービス提供を行い、長期休暇のみの利用児童の積極的受け入れを行った。

利用児童の健全な育ちをサポートしていくため、地域、また学校を始め様々な支援機関との連携を引き続き行うとともに、就労継続支援はあもにいと連携を取り、デイサービス利用高等部2~3年生の希望調査を行い、就労継続支援はあもにいで職場実習や就労につなげた。結果、希望者1名の実習を行い、卒業後入所する運びとなった。

利用児童及びご家族からの評価は高く、サービスについて満足の声を面談や卒業時に、本人やご家族からいただいているが、高等部卒業にともなうデイ卒業児童数は増える一方、新規利用児童数は微増。結果、1日あたりの平均利用児童数は今年度も前年度を下回り、今年度も大幅な減収となってしまった。

## ②就労継続支援事業（A型）

デイサービス第6期卒業生1名と、ハローワークから千葉市特別支援高等学校の卒業生1名及び一般就労経験者1名を引き受け、総勢15名（雇用有8名、雇用無7名）体制でスタート。途中、心身不調により2名の退所者が出てたが、雇用有は千葉県最低賃金（時給868円→10月1日より時給895円）以上、雇用無は時給千葉県最低賃金×0.4～0.6円、雇用有で平均賃金月額88,000円、雇用無で平均工賃月額42,000円支払いを達成することができた。

雇用・非雇用の判断及び支払報酬額の決定に際し、より公平な評価かつ利用者及び家族の納得できる評価制度を導入し、年間を通してアセスメントを行い、全員が適切かつ望ましい処遇で働くことができるよう取り組みを行った。

年度末のモニタリングでは全員が継続利用を希望。生涯（長期）雇用型のA型事業所として利用者達が成長できる支援体制、ひとりひとりの能力・適性に合わせた仕事作り等の取り組みを今年度も継続して行った。さらに、利用者の能力・適正に合わせた作業分担を行い、全体で成果を上げていく体制をとると共に、本人達が見通しを持ち、安定した状態で仕事ができる環境つくりも継続して行った。

Community Cafe b（ふらっと）においては、1名の精神障碍者（専従）、4名の知的障碍者（専従2名、養蜂部&農業部兼務2名）という体制のもとスタート。10月末に心身不調で1名が対処となつたが、1階カフェでの接客、厨房、清掃、会計、ショップ販売業務、2階での制作活動及び雑務等店内業務、出張販売等店外業務と多岐にわたる業務を、特性、適正に合わせて振り分け、少しずつ補助なくこなしていくよう、支援及び体制を整えることができた。

お菓子工房 はあもにいにおいては、5名の知的障碍者（専従3名、清掃部兼務1名、農業部兼務1名）体制でスタート。作業歴の長い2名を中心に着実に力をつけてきたことから、さらに関わる業務を増やすとともに、全員がミスなく業務を遂行できるようチェック体制を強化し、自社販売だけでなく、OEM製造も受けられる体制が整えることができた。

はあもにい養蜂部&はあもにい農業部においては、5名の知的障碍者（専従1名、b兼務2名、工房兼務1名、清掃部兼務1名）体制でスタート。事業計画では「35分作業5分休憩（夏場は25分作業5分休憩）」を目標としたが、最終的には「40分作業5分休憩（夏場は25分作業5分休憩）」と天候や気温を考慮した作業の組み立てにより、負担が少なく集中して作業に取り組むことで、目標を超えた成果を上げることができた。

はあもにい清掃部においては、2名の知的障碍者（工房兼務1名、養蜂部兼務1名）体制でスタート。鎌取コミュニティセンター（指定管理会社：京葉美装様）において、協力事業体として清掃業務の一部を委託作業として引き続き行った。前年度同様業務に携わる部員一人一人が、一つ一つの作業を丁寧に、掃除し残しがないよう確認しながら、お客様に喜んでいただける清潔感あふれるエントランス及びフロアにしていくよう支援及び体制を整えた。お客様からの励ましや応援の声をいただくことが一層増えた。

事務部門は精神障碍者 3 名体制でスタート。4 月入所者が 8 月末に心身不調で退所となつたが、それぞれの特性、適正、能力を生かし、経理、総務、営業事務、広報と担当を分け、成果を上げていけるよう作業量や作業内容について随時話し合いながら、無理なく作業を遂行できるよう体制つくりを行い、力が發揮できるよう支援を行つた。

前年度に引き続き、単なる働く場としてだけでなく、充実した時間が過ごせるよう季節行事や誕生会等イベントも年間スケジュールを立て実施した。

入所式→花見、全部門合同懇親食事会、誕生会、ウルトラ運動会参加等。

また市立養護学校等在校生（デイ利用高等部 2~3 年生）の実習受け入れも引き続き行い（デイサービスアセスメント時に希望調査を行う）、部門間で連携し長期的支援を行つた結果、卒業生 1 名が 31 年度入所となつた。

今年度もハローワークからも、入所希望者の受け入れを行い、31 年度 1 名が入所することとなつた。

利用者への支援体制の充実、本人及びご家族からの満足度は高く、事業部門でも成果を上げることができた。一方、利用者数が増えたことから、給付費収入も增收となつたが、部門数が多いため職員は加配体制を取らざるを得ず、今年度も支出が収入を上回る結果となつた。

利用希望は特別支援学校生徒のみならず、地域の在宅障碍者の方からも依然多くあるため、利用者が定員 15 名いっぱいとなった本年度中に、定員増（20 名）もしくは AB 多機能型への移行を目指し準備を進めたが、スタッフ確保及び新しい業務確保等中々進まず、本年度は断念。次年度 AB 多機能型を目指し、準備を進めることとした。

### ③グループホーム事業

施設運営企画準備について検討を行う。

## II 就労事業

29 年 4 月より、A 型事業の指定基準がより一層厳しいものとなり、A 型事業で行う就労事業の完全黒字化が必須事項となつた。就労継続支援はあもにいでは、毎年売り上げ（収益）を上げ、前々年度から売上から経費を引いた粗利 ≥ 利用者賃金・工賃の達成ができるようになった。しかしながら毎年利用者は増え、30 年度は新たに 3 名利用者増、また今後も可能な限り受け入れを行うことを目指すため、引き続き売り上げ（収益）増を目指し取り組みを行つた。結果として、売り上げは前年度とほぼ同額だったが、商品価格の見直し及び経費削減等の努力が実り収益増となり、30 年度も粗利 ≥ 利用者賃金・工賃を達成することができた。

### ① Community Café ぶ（ふらっと）

施設見学やランチ予約、仕出し弁当、出張販売（病院、老人ホーム等）活動及びオリジナル商品（ボトルフラワー）製造販売等は継続。営業日終了後もしくは休業日にレンタルスペースとして 1 階カフェスペースの貸し出しを行い、売り上げ増を達成できた。

#### ②お菓子工房はあもにい

平日出張販売、イベント販売、ギフト需要の増加、スイーツギフト会員の増加等に伴い生産量及び売り上げ（収益）を上げることができた前年度同様の取り組みを行った他、商品価格の見直し（値上げ）も実施。下半期 OEM 製造の環境が整い、2 社の取引が年度末から始まり、次年度売り上（収益）増は確実となつたが、売り上げ増は達成できなかつた。

#### ③はあもにい養蜂部&農業部

前年度末から進捗中及び新規の取引案件成立、有料養蜂及び農業体験プラン実施、企業向け貸し巣箱、畑プラン等計画の実施を目指した。また商品価格の見直し（値上げ）も実施。畑において企業から委託生産を受けることができたが、収穫量が予定の半分以下となつたり、はちみつの新規取引先は増えたが、既存取引先の売上減少及び大口取引がなくなつた結果、減収となつた。

しかし、作業能力が上がり作業量が増えたため、時間に余裕ができ、新しい仕事の請負（PC 解体作業）が可能となり、年度末から業務が始まり、次年度は本請負業務ほか、はちみつビン詰め等 OEM 請負などでも売り上げを上げる体制を整えることができた。

#### ④はあもにい清掃部

鎌取コミュニティセンターでの週 2 日の清掃業務に加え、毎日の事業所清掃作業を通じスキルアップを果たしたほか、清掃範囲を広げることができ、喜んでいただくことができた。

#### ⑤はあもにい事務部

あらたな業務として、自社オンラインショップやショッピングモールの運営等に取り組み、内部委託以外で収入を得られる部門を目指したが、1 名の退所や継続メンバーも体調不良により希望日数出勤できず、目標は達成することができずに終わった一方、在宅ワークを希望しより長い時間働くことを希望する利用者もいることから、次年度に向けて在宅就労を可能にする体制を整えていった。

### III相談支援事業

1 億総うつと呼ばれる現在、当事者や家族だけでなく、地域住民の方たちなど、悩みを抱え、話を聞いてくれる人や場を求める人は増える一方である。30 年度も継続して、利用児童や利用者及びその家族だけでなく、求める人たちに、場として力を活用してもらった。

### IV普及・啓発活動

真的「半径 20Km のノーマライゼーション」が進められるように、丁寧な活動の組み立て、また、一緒に取り組んでいく仲間作りを今年度も継続して行い、サポーターを増やすことができた。